

常なる磐

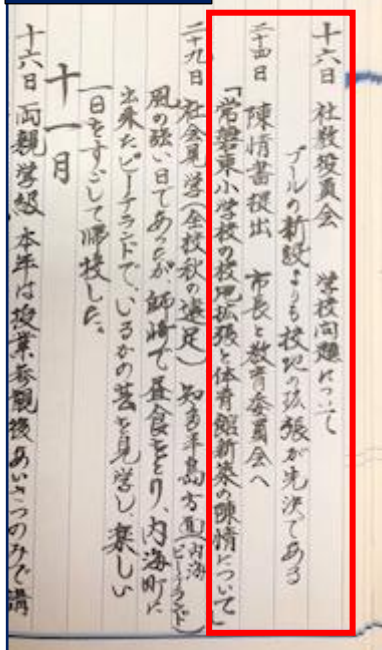
つねなる いわ season II

令和 4年 2月 18日(金)

その2

◇ 学校【沿革史】を紐解いて⑧ 校舎移転に向けた動き I

昭和55年10月



左は、【沿革史第3集(S54~S62)の昭和55年度10月の記録。

赤口内に、以下のとおりの記載がある。

十六日 社教委員会 学校問題について
プールの新設よりも校地の拡張が先決である

二十四日 陳情書提出 市長と教育委員会へ
「常磐東小学校の校地拡張と体育館新築の陳情について」

つまり昭和55年当時は、新校舎建設ではなく、旧校地の「校地拡張」ならびに「体育館の新築」の動きがあった模様。

その後、陳情案件の記載は翌56年度11月まで間が空く。

十一月十三日 市政を話し合う会

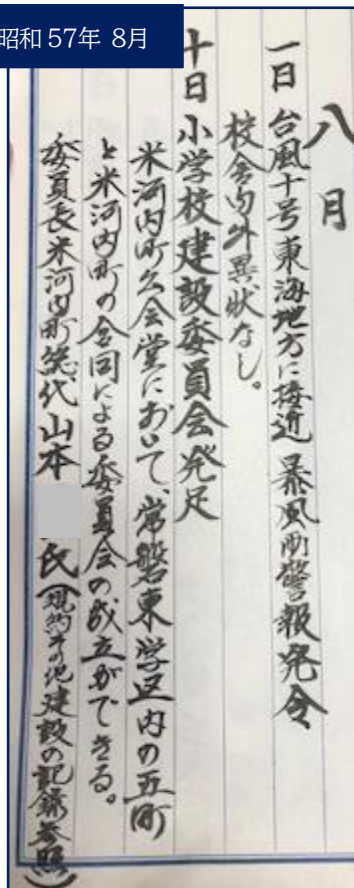
中根(鎮夫)市長をはじめ市当局各部課長来校。学区関係の諸問題について説明。質疑応答あり。特に学校問題については、市長より「検討中であるが均衡と調和のとれた教育施設の充実のためにも、常磐東小学校の学校施設の整備充実に対する具体策を早急に実現させたい」と確約された。

との記録が残っている。さらに年が明けた57年1月の記録。

自分も他校で校地拡張に関わる陳情案件に携わったことがあるが、上記のように案件が陳情翌年に軌道に乗るのは、極めて稀なことである。ひとえに当時の地域選出議員をはじめ、総代会等、地域の声を吸い上げ、丁寧かつ誠意をもって働きかけたおかげであろう。

昭和57年1月☞と昭和57年8月☞の記録。

昭和57年8月



一月十二日 (前略)

米河内町との合意により、新学区編成による学校建設を本年より具体的に進めることを市長が確約された。

まさに急転直下の新展開。事の進む速さは、驚きしかない。

昭和 55 年 10 月に出された陳情書は、安戸にあった旧常磐東小学校の「校地拡張とプール建設」。それが、約一年後には市長が環境整備の充実を公言している。これは、予算の確保をはじめとする本格的な準備が始まった証である。

「10 年以上は時間がかかる」と言われる学校の拡張問題。さらに案件に乗るまでに数年かかるところを、本案件の場合、この間 1 年。それ以上の驚きは、まだまだ続く。

市長発言から一年以内に、案件は「校地拡張」から学区再編を含めた【校舎移転】へと変化した。関わる予算は数倍ではかなわない。何十倍、いや桁が一つ足りないぐらいだろう。（※実際、本校舎建設に関わる用地買収費・造成費・建築費・整備費等を合わせると、ざっと 10 億円かかったと聞いている。）

ホップ・ステップ・ジャンプどころか、ホップからのジャンプ。まさに飛び級展開である。

一番の難題は「米河内地区」の学区編入だったと聞かすが、これも数か月の間で折り合いをつけ、6 町合意による「建設委員会」が発足されている。速さに驚きである。

元々の学区であった 5 町も大きな歩み寄りがあったことだろう。なぜなら、ただでさえ距離の長い大柳・新居・小丸・蔵次の子供たちの通学距離は、ぐんと伸びるのだ。

合意の最大のエネルギーは、「子供のため」という地区不変の「子供ファースト」の共通な思いと願い。地域力の集結が、「腰が重い」と言われる市政をも動かしたと言える。

その後の「校舎移転」にかかわる動きを、【沿革史】より抜粋する。

S57.	9. 20	(旧安戸)校舎老朽度の調査。 市教委施設管理課来校。
	11. 22	午後 7 時より市政を話し合う会。2 年教室と 5-6 年教室の間仕切りを取り、学芸会や卒業式と同じ会場を作り（※当時は体育館がなかった）中根市長をはじめ市当局の各部長、横井教育長も来校され、午後 9 時まで話し合われ、建設の約束をされて終了した。
S58.	1. 20	第 4 回小学校建設委員会。 小学校建設候補地について、市当局による説明会が開催され、横井教育長、横田教育次長、伊藤施設管理課長が出席される。 ※S58. 4. 1 18 代 加藤義夫 校長 転任 山中小校長へ 19 代 都築 泉 校長 着任
	10. 18	市政を話し合う会。 中根市長をはじめ市当局各部課長来校。
S59.	3. 1	学校建設委員会役員会・学校用地説明会 ※S59. 4. 12 20 代野村鉦吉 校長着任
S60.	6. 8	地鎮祭 午前 10 時より造成地(現本校地内)にて挙行→ 建設開始
	12. 4	創立八十五周年と校舎お別れ会の準備会 (以下中略「学校建設協力会」等複数回開催)
S62.	3. 18	新校舎の検査が十一時から現地にて行われ、校長と教頭が立ち会う。十五時半、放送機器の用法を聞く。十六時、 新校舎及び体育館の鍵を市から受領す。 校地拡張陳情から、この間 6 年半。異例中の異例の速さである。

新校舎建設に大きく寄与された 野村鉦吉 先生 2022. 2. 2 ご逝去。ご尽力に感謝。